

# 令和5年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

## 地理歴史

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
地理歴史	ふるさと愛媛学	2	3年次・L2	自由選択

目 標			履修の条件・連絡		
1 愛媛県・新居浜市の地理について地図・資料などを使って学習する。 2 愛媛県・新居浜市の歴史について資料などを使って学習する。 3 郷土の史跡へフィールドワークを行い、地域への愛着を育む。			・愛媛・新居浜の地理・歴史及び、地域の課題に興味・関心のある生徒を求める。		
<b>使用教科書</b> (出版社)		教科書なし高校生のための『愛媛県史』 学習資料集	<b>副教材</b> (準備物)		
		授業プリント			
学 習 の 年 間 計 画	期	月	学習内容 (単元・項目)	学 習 の ね ら い	
	1 学 期	4月	1 愛媛の暮らしを学ぶ (1)愛媛の地理クイズ (2)愛媛県自然环境 (3)愛媛県の産業 (4)愛媛県の人と生活文化	・愛媛の自然环境や産業について学ぶ。 ・愛媛の恵まれた環境から特色ある郷土料理や県民性が形成されたことを理解させる。 ・愛媛の祭りや信仰を学び、地域ごとの特色を比較する。 ・新居浜の自然环境や産業の特色を知る。	
		5月	2 新居浜の暮らしを学ぶ (1)新居浜の自然环境 (2)新居浜の産業と生活文化 *校外学習Ⅰ (新居浜の断層と扇状地)		
		6月	3 愛媛の歴史を学ぶ (古代) (1)縄文・弥生・古墳時代の暮らしと文化 (2)聖徳太子と伊予湯岡碑 (3)白村江の戦いと熱田津、永納山城 (4)伊予国分寺と古代仏教文化 (5)律令体制下の伊予 *校外学習Ⅱ (横山古墳群・正光寺山古墳)		
7月	(1)縄文・弥生・古墳時代の暮らしと文化 (2)聖徳太子と伊予湯岡碑 (3)白村江の戦いと熱田津、永納山城 (4)伊予国分寺と古代仏教文化 (5)律令体制下の伊予 *校外学習Ⅱ (横山古墳群・正光寺山古墳)	・現地調査から新居浜市の扇状地について学ぶ。 ・愛媛県各地に残る縄文・弥生時代の遺跡や古墳について知る。 ・伊予湯岡碑から聖徳太子について考察する。 ・伊予国は豊かな国であり、古代海上交通の要地であったことを理解する。  ・現地調査から新居浜市内の古代・遺跡を学ぶ。			
2 学 期	9月	4 愛媛の歴史を学ぶ (中世) (1)藤原純友の乱と地方武士団の成立 (2)源平の争乱と伊予の武士 (3)元寇と河野通有の活躍 (4)村上水軍と戦国時代 (5)中世山城と戦国時代 *校外学習Ⅲ (中野神社・円福寺)	・藤原純友の乱がなぜ起こったのかを考察する。 ・鎌倉幕府と伊予国の関係を、河野氏を中心に理解する。 ・村上水軍と中世山城から戦国期の伊予国を考察する。  ・現地調査から鎌倉期の伊予国について考察する。 ・天正の陣と金子氏の動向について学ぶ。 ・狸話から江戸時代の新居浜・西条地区の新田開発や多喜浜塩田について理解する。 ・別子銅山と住友家について学び、新居浜への愛着を育む。 ・現地調査から天正の陣当時の人々の思いを考察する。 ・別子銅山の発展と新居浜市の発展の関連性を学び、郷土への興味・関心を育てる。		
	10月	(1)藤原純友の乱と地方武士団の成立 (2)源平の争乱と伊予の武士 (3)元寇と河野通有の活躍 (4)村上水軍と戦国時代 (5)中世山城と戦国時代 *校外学習Ⅲ (中野神社・円福寺)			
	11月	5 愛媛の歴史を学ぶ (近世) (1)天正の陣と金子元宅 (2)狸話と新田開発 (3)多喜浜塩田 (4)別子銅山の開鉱と住友家の発展 *校外学習Ⅳ (慈眼寺・金子山城)			
12月	6 愛媛の歴史を学ぶ (近代) (1)近代産業の発展と別子銅山 (2)新居浜太鼓祭りや新居浜の発展 (3)戦時中のえひめの暮らし *出張講義 (戦時中のえひめの暮らし)	・戦時中のえひめの暮らしを学び、当時の人々の生活や思いを学ぶ。			
3 学 期	1月	7 愛媛のこれからを学ぶ (1)新居浜のこれからを考える *校外学習Ⅴ (瑞応寺座禅体験)	・愛媛の活性化への取り組みに関する記事などを取り上げ、地域の課題を発見し、その解決に向けて取り組むべきことについて考察する。		
	2月	*校外学習Ⅴ (瑞応寺座禅体験)			
	3月	*校外学習Ⅵ (近藤酒造株式会社)			
学 習 評 価	観	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	規 準	授業の内容に関心を持っているか。 調査、見学や発表に意欲的に取り組んでいるか。	「なぜ起こったか」を説明できるか。 地域の問題を解決するための協働力を発揮できるか。	資料がノートに分かりやすく整理されているか。 資料を使って様々な事柄を説明できるか。	愛媛や新居浜についての基礎的知識を習得したか。 地域の特色や課題をよく理解できているか。
	手 段	・授業態度の観察 ・ノートの提出	・定期考査 ・授業中の発問	・ノート整理の点検 ・調査の発表	・定期考査
	各 学 期 や 年 間 の 提 出 物 の 評 価 方 法	・定期考査 (期末・年次末) を3分の2、平常点を3分の1程度で評価する。 ・平常点はノート・課題レポートなどの提出物、授業態度で評価する。			
学 習 上 の 留 意 点	・「なぜ」「どうして」の視点から考え、教員・生徒・地域の人などと対話をしながら理解を深める。 ・授業での発言や協働作業、課題レポートの作成などを主体的に行い、地域に関する探究力を深める。 ・年数回、校外学習 (フィールドワーク) を行い、地域に対する愛着 (シビックプライド) を養う。				